

# 南小だより

文責 校長 櫻井

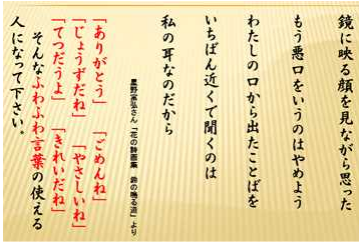
## 人権週間

12/1~

十二月一日から始まった校内人権週間。この日、子どもたちには「人権とは？」を問いかける講話を行いました。



いの人権を尊重するにはどうしたらよいか考えてもらいました。子どもたちなりに「譲り合いの精神」につながる解決策を発表することが出来ました。



上の図を示し、年齢差、男女差、国籍に係わること無く「人が人として生まれてきて、幸せに生きる権利」と説明する一方、誰もが持っている人権だけに互

を身につけさせたいと思います。 集団生活を学ぶ場でもある 学校生活。互譲の精神で、小さなトラブルを解決出来る力を

## 小中交流

11/21

小中連携による教育効果を狙ったこの事業に、本校出身の中学二年生がやってきました。最初は硬い表情の中学生が、後半は、担当したそれぞれの学年の児童と共に生き生きと活動していました。

年少者の世話をすること、自らの力を伸ばすよい機会になっていると感じました。小学校における縦割り活動も同じ事が言えると思います。活動をとおして、年長者としての役割や年少者としての姿勢を学び取らせたいと思います。



## 持久走大会

11/27

雨で順延となったこの日、小春日和の日差しの中で持久走大会を行いました。

昨年引き続き子どもたちには、自己ベストを目指して走るように話しました。コース脇からの大勢の声援に、いつも以上の力が発揮出来たようです。



呼吸法や走りのフォームなどを身につけることでまだまだ伸びしろがありそうです。日々の練習を大切にして、来年度の自己ベストを目指してほしいと思います。

## 岩舟地区理科発表会

11/26

栃木市と合併はしましたが、今年も岩舟地区での理科発表会が行われました。

北小「氷をとかす物は？」  
岩小「さぐれ！ドミノたおしのひみつ」  
静小「われなないシャボン玉を作る」

南小「津波の研究 パート2」

の順で、四校の五年生が発表をしました。

各校とも課題に沿って実験による検証を積み重ねた大変よい発表でした。

本校の研究は、岩舟地区代表として年明けに行われる下都賀地区理科研究発表会に参加することになりました。

この理科研究のように、疑問に思ったことをきっかけて仮説を立て、検証方法を考え、実験や観察を繰り返し、解ったことやさらに研究が必要なことを整理していくという学習の進め方は、他の教科にも共通するだけでなく、自主的な学習を進める力につながるものです。

日頃の学習は時間に追われ、ひとつのテーマでじっくり取り組む機会が少なくなっています。こうした機会を大切にして本物の学力を伸ばしたいと思えます。



## 数字を読む

### （児童による学校評価から）

児童による項目毎の評価平均値を見ると、中・高学年の「自主学習の進め方などが身につけていますか。」という設問で3・4となっている以外はすべて三点台の後半の評価となっており、概ね良好な評価結果となった。

一方、個票やそれらを集計した一覧表を丁寧に見ると、気になる幾つかのことが挙げられる。

1や2という低評価でも、先の自主学習のように、自己を客観的に見られるようになってきているものは成長の跡と言える。だが、「学校の生活や学習について相談できる先生がいますか。」という設問に、中・高学年の児童二人が2の評価をつけていた。設問の理解も自分の考えを的確に表現することも難しい低学年では無いだけに重く捉えたい。「全児童全教職員担任」の意識の下、多くの教職員が関わる

## 校長のつぶやき

ことで誰がしかには相談出来る環境を築きたい。また、一人だけではあるが、全二十一項目中六つに低評価をつけている児童がいたのも気になる。学校評価とは言え、自己評価の低さの表れとも言えるからだ。かつて仕えた教育長から言われた「認めて褒めて励まして、信じて待つて見届ける」を担任共々実践し、自己肯定感を高めたい。

数字の裏側にある子どもの思いを読み取る一方で、自由記述された文章にも子どもの素直な思いが見て取れる。

低評価の理由には客観的な見方を出来るようになった成長を、何かが出来たようになった喜びが書かれているのにも同様の成長を感じる。テストや宿題を無くしてほしいという子どもらしい願いだけでなく、大人の思いとは裏腹に「弁当の日を作って」や「学童を三年までにして」には、少々複雑な思いがしている。